



Informatica® Application Integration  
October 2022

# SAP BAPI コネクタガイド

Informatica Application Integration SAP BAPI コネクタガイド  
October 2022

© 著作権 Informatica LLC 1993, 2022

発行日: 2022-12-14

# 目次

<b>序文</b> .....	4
<b>第 1 章 : SAP BAPI コネクタの概要</b> .....	5
SAP BAPI コネクタ.....	5
SAP BAPI コネクタの実装.....	5
SAP BAPI コネクタの管理.....	6
BAPI 用 SAP ライブラリのダウンロードと設定.....	6
SAP ユーザー権限の設定.....	7
<b>第 2 章 : SAP BAPI 接続</b> .....	8
SAP BAPI 接続の概要.....	8
基本接続のプロパティ.....	8
SAP BAPI 接続プロパティ.....	9
SAP BAPI 接続メタデータ.....	11
SAP BAPI 接続メタデータの理解.....	11
SAP BAPI 接続の作成.....	14
<b>第 3 章 : SAP BAPI コネクタのプロセス</b> .....	15
SAP BAPI コネクタのプロセスの概要.....	15
SAP BAPI コネクタを使用したプロセスの例.....	15
手順 1: 接続の作成.....	16
手順 2: 変数の作成.....	16
手順 3: 変数の割り当て.....	16
手順 4: BAPI サービス呼び出しの設定.....	17
手順 5: BAPI 出力パラメータの Oracle テーブルへの書き込み.....	18
手順 6: プロセスの実行.....	19
BAPI_SALESORDER_CREATEFROMDATA1 を使用したプロセスの例.....	20
<b>索引</b> .....	21

# 序文

SAP BAPI との接続を設定および使用する方法については、『*SAP BAPI コネクタガイド*』を参照してください。

このガイドは、SAP BAPI、およびアプリケーションの統合で接続とプロセスを作成する方法に精通していることを前提としています。

# 第 1 章

## SAP BAPI コネクタの概要

この章では、以下の項目について説明します。

- [SAP BAPI コネクタ, 5 ページ](#)
- [SAP BAPI コネクタの実装, 5 ページ](#)
- [SAP BAPI コネクタの管理, 6 ページ](#)

## SAP BAPI コネクタ

ビジネスアプリケーションプログラミングインタフェース（BAPI）を使用すると、サードパーティアプリケーションと SAP をオブジェクトレベルで同期的に統合できます。BAPI を使用して、SAP のデータの読み取り、作成、変更、または削除を行うことができます。

SAP は、リモートファンクションコール（RFC）を通じてビジネス関数をリモートから呼び出す機能を提供します。BAPI は、SAP がビジネスオブジェクトリポジトリでパブリッシュしている、RFC 対応関数のサブセットです。BAPI は、特定のビジネス関数を実行する SAP ビジネスオブジェクトタイプのメソッドとしてパブリッシュされます。BAPI では、各ビジネスオブジェクトタイプのメソッドを使用して SAP システムオブジェクトにアクセスできます。BAPI では、ビジネスオブジェクトタイプ以外に、ビジネスレベルでのインタフェース標準も定義して文書化します。

SAP BAPI コネクタは、アプリケーションの統合のサービス呼び出しとして使用できます。例えば、SAP で販売オーダーデータを更新するには、SAP BAPI 接続を設定して、BAPI\_SALESORDER\_CHANGE 関数にアクセスできます。

トランザクション SE37 を使用して、SAP で BAPI インタフェース定義を表示およびテストできます。

## SAP BAPI コネクタの実装

SAP BAPI 接続を作成して、SAP システムに接続し、特定の BAPI 関数にアクセスできます。テーブルタイプのパラメータにアクセスすることもできます。

プロセス内にサービス呼び出しを設定して、SAP システムとの間でデータの受け渡しを行えます。

BAPI/RFC 関数は関数パラメータ値を使用してタスクを実行します。

BAPI/RFC 関数は次のパラメータを持つことができます。

関数パラメータ	説明
インポート	入力値。一部の BAPI 関数では、データの変更などのタスクの実行に入力値が必要です。
エクスポート	BAPI 関数がタスクを実行後に返す出力値。
テーブル	複数の行を持つ SAP 構造体。テーブルパラメータは入力、出力、またはその両方である場合があります。テーブル入力パラメータはテーブル入力値を BAPI/RFC 関数に渡します。例えば、一部の BAPI/RFC 関数はデータを変更するのにテーブル入力が必要です。

実行するタスクに基づいて、SAP BAPI 接続をプロセスのサービス呼び出しに設定し、入力パラメータと出力パラメータを、BAPI で必要なイベントソースやイベントターゲットにマッピングします。

## SAP BAPI コネクタの管理

SAP BAPI 接続を使用して、BAPI 経由でデータを処理するためには、管理者が次のタスクを実行する必要があります。

- BAPI パッケージが登録されていることを確認します。
- SAP ライブラリをダウンロードして設定します。
- SAP ユーザー権限を設定します。

### BAPI 用 SAP ライブラリのダウンロードと設定

SAP JCo ライブラリをダウンロードし、Secure Agent を実行するマシン上に設定します。ライブラリのダウンロードに関する問題については、SAP カスタマサポートにお問い合わせください。

1. 次の SAP Service Marketplace に移動します。<http://service.sap.com>

**注:** Service Marketplace にアクセスするには、SAP 資格情報が必要です。

2. Secure Agent を実行するオペレーティングシステムに基づいて、64 ビットの SAP JCo ライブラリの最新のバージョンをダウンロードします。

Secure Agent システム	SAP ファイル名
Windows	sapjco3.jar sapjco3.dll
Linux	sapjco3.jar libsapjco3.so

3. 次のディレクトリにライブラリをコピーします。

<Informatica Secure Agent installation directory>\apps\process-engine\ext

4. Secure Agent を再起動します。

## SAP ユーザー権限の設定

SAP 管理者が、SAP の開発システム、テストシステム、本番システムにプロファイルを作成すると、統合機能を使用できるようになります。このプロファイル名には、オブジェクトおよび関連アクティビティの権限を含む必要があります。テストシステムのプロファイルは、本番システムのプロファイルと同じである必要があります。

ユーザーとプロファイルのセットアップは、SAP GUI を使用して SAP 内で行われます。このアクティビティは、Informatica Cloud®の外部で行われます。

次の表に、SAP ユーザーが BAPI/RFC 関数を使用してタスクを実行するために必要な権限を示します。

権限オブジェクト	権限値
S_RFC	SYST、SDTX、SDIFRUNTIME、RFC1、RFC2

**注:** 上記の権限に加えて、ユーザーは、実行する必要がある BAPI/RFC 関数へのアクセスも必要です。

## 第 2 章

# SAP BAPI 接続

この章では、以下の項目について説明します。

- [SAP BAPI 接続の概要, 8 ページ](#)
- [基本接続のプロパティ, 8 ページ](#)
- [SAP BAPI 接続プロパティ, 9 ページ](#)
- [SAP BAPI 接続メタデータ, 11 ページ](#)
- [SAP BAPI 接続メタデータの理解, 11 ページ](#)
- [SAP BAPI 接続の作成, 14 ページ](#)

## SAP BAPI 接続の概要

SAP BAPI 接続を作成して、SAP システムに接続し、特定の BAPI 関数にアクセスできます。テーブルタイプのパラメータにアクセスすることもできます。

SAP BAPI 接続を作成した後に、接続を検証、保存、およびテストできます。

次に、SAP BAPI 接続をパブリッシュして、**【メタデータ】** タブをクリックし、接続用に生成されたプロセスオブジェクトを表示できます。

## 基本接続のプロパティ

次の表に、接続の作成ページの **【プロパティ】** タブで設定可能な基本プロパティを示します。

プロパティ	説明
名前	必須。Process Designer での識別に使用される、SAP BAPI 接続の一意的な名前。名前はアルファベットで始まり、アルファベット、数値、ハイフン (-) のみを含めることができます。
場所	接続を保存するプロジェクトまたはフォルダの場所。 <b>【参照】</b> をクリックして場所を選択します。 <b>【エクスプローラ】</b> ページがアクティブで、プロジェクトまたはフォルダが選択されている場合、接続のデフォルトの場所は選択されたプロジェクトまたはフォルダです。それ以外の場合、デフォルトの場所は最近保存されたアセットの場所になります。

プロパティ	説明
説明	オプション。接続の説明。
タイプ	必須。コネクタまたはサービスコネクタに使用する接続のタイプ。[SAP BAPI] を選択します。
実行日時	必須。接続を実行する必要がある Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンの名前。
接続テスト	SAP BAPI コネクタではサポートされていません。
OData 対応	SAP BAPI コネクタではサポートされていません。

これらの基本プロパティと一緒に使用する場合、SAP BAPI 接続タイプに適用できるプロパティを定義する必要があります。

【メタデータ】タブには、SAP BAPI 接続をパブリッシュするときに生成されるプロセスオブジェクトが表示されます。

## SAP BAPI 接続プロパティ

次の表では、【接続設定】セクションで設定する必要がある SAP BAPI 接続のプロパティを定義しています。

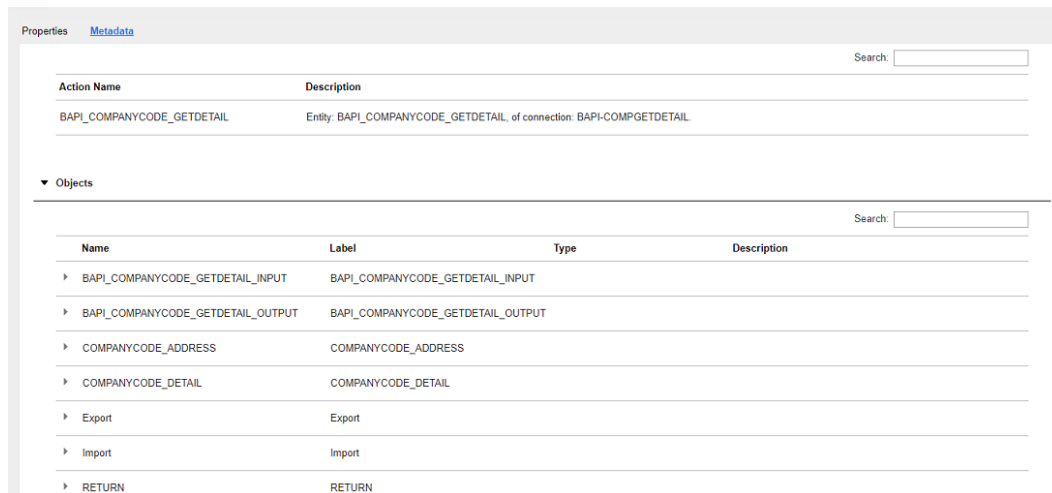
接続プロパティ	説明
ユーザー名	必須。S_DATASET、S_TABU_DIS、S_PROGRAM、B_BTCH_JOB の各オブジェクトに対する権限を付与された SAP ユーザ名。
パスワード	必須。SAP パスワード。
ホスト名	必須。接続する SAP システムの論理名。
クライアント	必須。SAP クライアント番号。
言語	オプション。SAP 言語に対応する言語コード。
システム番号	必須。SAP システム番号。

接続プロパティ	説明
SAP の追加パラメータ	<p>オプション。Secure Agent が RFC クライアントとして SAP システムに接続するために使用する必要がある SAP の追加パラメータ。</p> <p>例えば、次のサンプルで示すように、ロードバランシングパラメータを定義できます。</p> <pre>GROUP=interfaces MSHOST=tzxscs20.bmwgroup.net</pre> <p>SAP は、ユーザーが指定したパラメータを基に接続タイプを推測します。例えば、ユーザーが GROUP パラメータと MSHOST パラメータを定義すると、SAP は接続タイプをロードバランシング接続と推測します。GROUP パラメータは SAP アプリケーションサーバーのグループ名を定義し、MSHOST パラメータは SAP メッセージサーバーのホスト名を定義します。</p> <p>SAP パラメータの詳細については、SAP のマニュアルを参照してください。</p> <p>また、<b>【SAP の追加パラメータ】</b> フィールドにプロパティを追加することで、Secure Network Communication (SNC) プロトコルを有効にして、アプリケーション統合と SAP 間のセキュアな通信を有効にすることもできます。SNC パラメータの設定の詳細については、<a href="#">How to configure the SAP Secure Network Communication Protocol in Application Integration</a> を参照してください。</p> <p><b>注:</b> <b>【SAP の追加パラメータ】</b> フィールドと他の接続プロパティのフィールドの両方でパラメータを設定すると、接続プロパティフィールドの値よりも <b>【SAP の追加パラメータ】</b> フィールドの値が優先されます。</p>
Jco トレース	<p>オプション。JCo トレースを有効または無効にします。</p> <p>デフォルトは <b>【いいえ】</b> です。</p> <p>JCo トレースを有効にすると、次のディレクトリから JCo トレースファイルにアクセスできます。</p> <pre>&lt;Secure Agent installation directory&gt;\apps\process-engine\&lt;latest_version&gt;</pre>
オブジェクトフィルタ	<p>オプション。接続先 BAPI 関数の完全修飾名。1 つの BAPI 名を指定できます。</p>

# SAP BAPI 接続メタデータ

SAP BAPI 接続の作成または更新後に、接続を保存してパブリッシュできます。接続のメタデータを【**メタデータ**】タブで表示できます。

次の図は、SAP BAPI 接続のパブリッシュされたメタデータを示します。



Action Name	Description
BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL	Entity: BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL, of connection: BAPI-COMPGETDETAIL

Name	Label	Type	Description
BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_INPUT	BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_INPUT		
BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_OUTPUT	BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_OUTPUT		
COMPANYCODE_ADDRESS	COMPANYCODE_ADDRESS		
COMPANYCODE_DETAIL	COMPANYCODE_DETAIL		
Export	Export		
Import	Import		
RETURN	RETURN		

SAP BAPI 接続をパブリッシュすると、デフォルトで【**メタデータ**】タブが更新されます。【**パブリッシュ（メタデータの更新をスキップ）**】をクリックすると、メタデータの更新をスキップして、パブリッシュにかかる時間を短縮できます。

## メタデータ更新のベストプラクティス

- 初めて SAP BAPI 接続を作成するときは、【**パブリッシュ**】をクリックしてメタデータをダウンロードします。メタデータの変更がない場合は、次に【**パブリッシュ（メタデータの更新をスキップ）**】をクリックします。
- SAP BAPI 接続で資格情報を変更するときに、メタデータが変更されていないことがわかっている場合は、接続をパブリッシュするときにメタデータの更新をスキップして、資格情報の変更のみを適用します。
- メタデータが変更されていることがわかっている場合は、【**パブリッシュ**】をクリックしてメタデータの変更を取得します。

# SAP BAPI 接続メタデータの理解

SAP BAPI 接続をパブリッシュするときに、BAPI 関数のインポート、エクスポート、およびテーブルの各パラメータをプロセスオブジェクトとして表示できます。

## BAPI の入出力のプロセスオブジェクト

すべての BAPI 関数で、入力パラメータは<BAPI name>\_INPUT プロセスオブジェクトでパブリッシュされ、出力パラメータは<BAPI name>\_OUTPUT プロセスオブジェクトでパブリッシュされます。例えば、BAPI 名が BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL の場合、オブジェクトリストには BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL\_INPUT プロセスオブジェクトと BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL\_OUTPUT プロセスオブジェクトが表示されます。

**注:** テーブルの入力パラメータと出力パラメータの構造は同じですが、テーブルの入力パラメータと出力パラメータの個別のプロセスオブジェクトを表示できます。例えば、BAPI\_COMPANYCODE\_GETLIST BAPI 関数の場合、テーブルパラメータ COMPANYCODE\_LIST は、COMPANYCODE\_LIST プロセスオブジェクトと COMPANYCODE\_LIST1 プロセスオブジェクトとして一覧に表示されます。このシナリオでは、Table\_Input プロセスオブジェクトのタイプは COMPANYCODE\_LIST で、Table\_Output プロセスオブジェクトのタイプは COMPANYCODE\_LIST\_1 です。

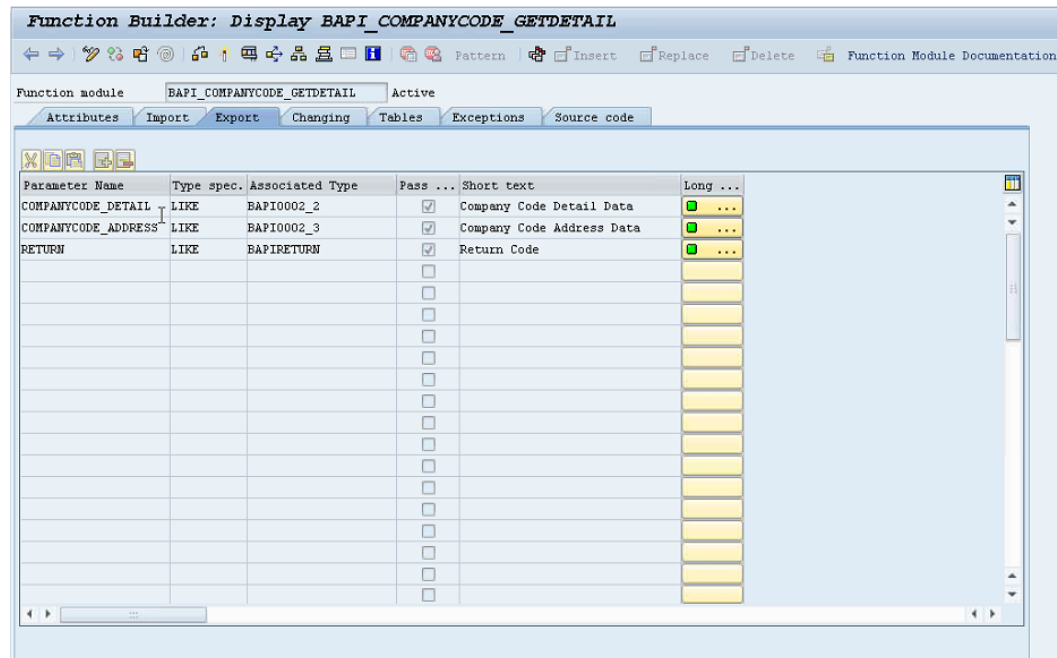
- BAPI インポートパラメータ
- BAPI テーブル入力パラメータ

- BAPI エクスポートパラメータ
- BAPI テーブル出力パラメータ

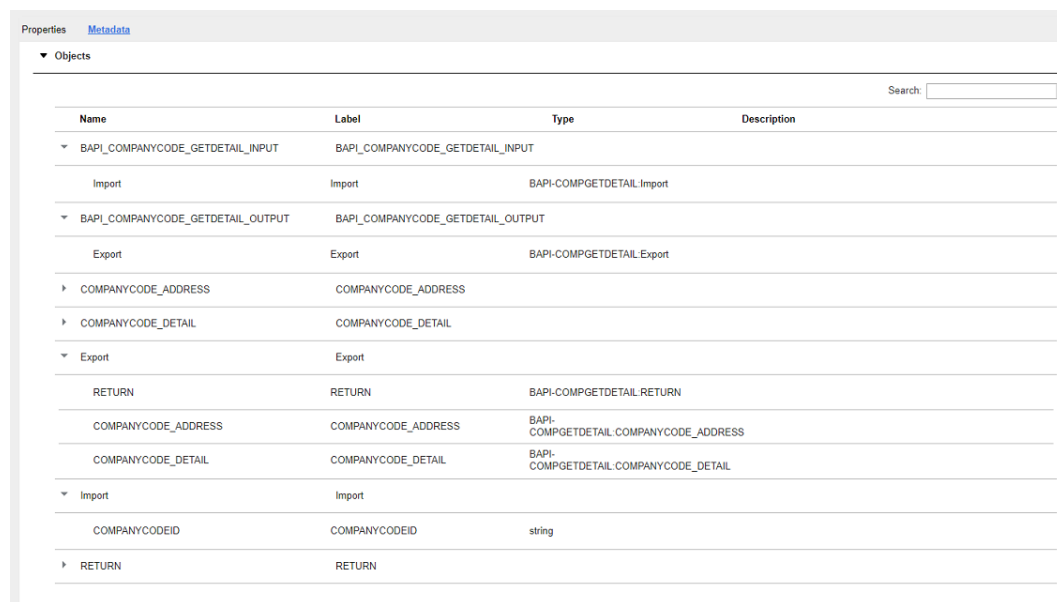
次の図は、SAP システムでの BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL 関数のインポートパラメータを示します。



次の図は、SAP システムでの BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL 関数のエクスポートパラメータを示します。



次の図は、BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL 関数に接続する SAP BAPI 接続の、パブリッシュされたインポート、エクスポート、およびテーブルメタデータを示します。



## ネストされた BAPI 構造

BAPI 関数パラメータは、他の構造やデータ型に関連付けることができます。BAPI 関数パラメータを別の構造に関連付けると、【タイプ】フィールドに構造の名前が表示されます。BAPI 関数内の各構造は、パブリッシュされたメタデータ内でプロセスオブジェクトとして表示されます。

例えば、エクスポートプロセスオブジェクトを展開すると、COMPANYCODE\_ADDRESS、COMPANYCODE\_DETAIL、および RETURN のパラメータが表示されます。これらのパラメータは、すべてネストされた構造であり、別のストラクチャと関連付けられています。ネストされた各構造は、オブジェクトリスト内で個別のプロセスオブジェクトとして表示されます。このため、オブジェクトリスト内で

COMPANYCODE\_ADDRESS、COMPANYCODE\_DETAIL、および RETURN の構造を表示できます。プロセスオブジェクトを展開して、構造内のすべてのフィールドとデータ型を表示できます。

次の図は、SAP BAPI 接続のパブリッシュされたメタデータに含まれるプロセスオブジェクトを示します。

The screenshot shows the SAP BAPI Objects browser interface. It displays a list of objects under the 'COMPANYCODE' package. The 'COMPANYCODE\_ADDRESS' object is expanded, showing its fields: ADDR\_NO, ADR\_NOTES, BUILDING, C\_O\_NAME, CITY, CITY\_NO, COMM\_TYPE, COUNTRY, DELIV\_DIS, and DISTRICT. The 'COMPANYCODE\_DETAIL' object is also expanded, showing its fields: COMPANYCODE\_ADDRESS, COMPANYCODE\_DETAIL, and RETURN. The 'RETURN' object is expanded, showing its field: CSFBAPIORA:RETURN.

Name	Label	Description
BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_INPUT	BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_INPUT	
BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_OUTPUT	BAPI_COMPANYCODE_GETDETAIL_OUTPUT	
COMPANYCODE_ADDRESS	COMPANYCODE_ADDRESS	

Name	Label	Type
ADDR_NO	ADDR_NO	string
ADR_NOTES	ADR_NOTES	string
BUILDING	BUILDING	string
C_O_NAME	C_O_NAME	string
CITY	CITY	string
CITY_NO	CITY_NO	string
COMM_TYPE	COMM_TYPE	string
COUNTRY	COUNTRY	string
DELIV_DIS	DELIV_DIS	string
DISTRICT	DISTRICT	string

Name	Label	Type
COMPANYCODE_ADDRESS	COMPANYCODE_ADDRESS	CSFBAPIORA:COMPANYCODE_ADDRESS
COMPANYCODE_DETAIL	COMPANYCODE_DETAIL	CSFBAPIORA:COMPANYCODE_DETAIL
RETURN	RETURN	CSFBAPIORA:RETURN

## SAP BAPI 接続の作成

SAP BAPI 接続を作成して、SAP システムに接続し、特定の BAPI 関数にアクセスできます。テーブルタイプのパラメータにアクセスすることもできます。

1. アプリケーション統合で、**[新規]** > **[アプリケーション接続]** > **[アプリケーション接続]** > **[作成]** の順にクリックします。

**[接続]** ページが表示されます。

2. 接続タイプとして **[SAP BAPI]** を選択します。
3. 接続の名前と説明を入力します。
4. 接続を実行する必要がある Secure Agent グループまたは Secure Agent マシンを選択します。
5. SAP BAPI 接続プロパティを入力します。

**[OData 対応]** オプションは、SAP BAPI 接続には該当しません。

6. 接続をテストします。

**重要:** 有効な SAP BAPI 関数名と接続のプロパティが入力されていることを確認する必要があります。また、接続の問題を表示するために、Jco トレースを有効化します。

7. 接続を保存してパブリッシュします。

**[メタデータ]** タブをクリックすると、SAP システム内で接続がアクセスする BAPI メタデータを表示できます。

## 第 3 章

# SAP BAPI コネクタのプロセス

この章では、以下の項目について説明します。

- [SAP BAPI コネクタのプロセスの概要, 15 ページ](#)
- [SAP BAPI コネクタを使用したプロセスの例, 15 ページ](#)
- [BAPI\\_SALESORDER\\_CREATEFROMDATA1 を使用したプロセスの例, 20 ページ](#)

## SAP BAPI コネクタのプロセスの概要

アプリケーションの統合の Process Designer を使用して、SAP 内でデータの読み取り、作成、変更、または削除を行います。

SAP BAPI コネクタは、アプリケーションの統合のサービス呼び出しとして使用できます。SAP BAPI 接続をプロセスのサービス呼び出しに設定し、入力パラメータと出力パラメータを、BAPI で必要なイベントソースやイベントターゲットにマッピングします。

## SAP BAPI コネクタを使用したプロセスの例

イベントソースから企業コード ID を読み取り、BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL 関数へのサービス呼び出しを通じて SAP システムに接続し、企業コードリストをリレーショナルデータソースに書き込むことができます。

この例では、BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL 関数にアクセスし、企業コード ID を Salesforce ソースから読み取り、企業の住所や詳細を Oracle データベースに書き込むためのサービス呼び出しを設定できます。

企業コード ID を Salesforce ソースから読み取り、企業の住所や詳細を Oracle データベースに書き込むために、次の手順を実行します。

1. アプリケーションの統合で、接続を作成します。
2. プロセスのプロパティに変数を作成します。
3. Salesforce から読み取り、プロセスに変数を割り当てます。
4. BAPI サービス呼び出しをプロセスに設定します。
5. BAPI 出力パラメータを Oracle テーブルに書き込みます。
6. プロセスを実行します。

## 手順 1: 接続の作成

アプリケーションの統合で複数の接続を作成して、ネイティブシステムに接続します。

次の接続を作成します。

- 企業コードを読み取るための Salesforce 接続。
- SAP システムで BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL 関数にアクセスするための SAP BAPI 接続。
- 企業コードのリストを Oracle データベースに書き込むための、Oracle への JDBC 接続。

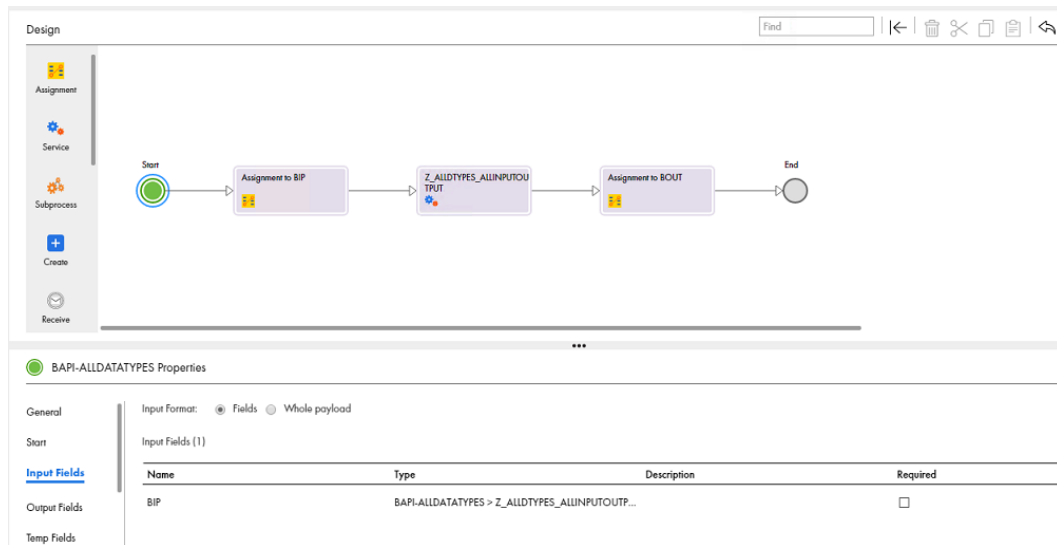
## 手順 2: 変数の作成

プロセス内に変数を作成し、入力フィールドと出力フィールドを割り当てます。

この例では、次の変数を作成します。

- Salesforce から企業コード ID を読み取る Salesforce 入力変数。
- BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL\_Input パラメータを取得し、Salesforce ソースから企業コードを読み取るための、BAPI 入力変数。
- BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL\_Output パラメータを取得し、企業コードの詳細を Oracle テーブルに書き込むための、BAPI 出力変数。

次の図は、作成する必要がある複数の変数を示します。

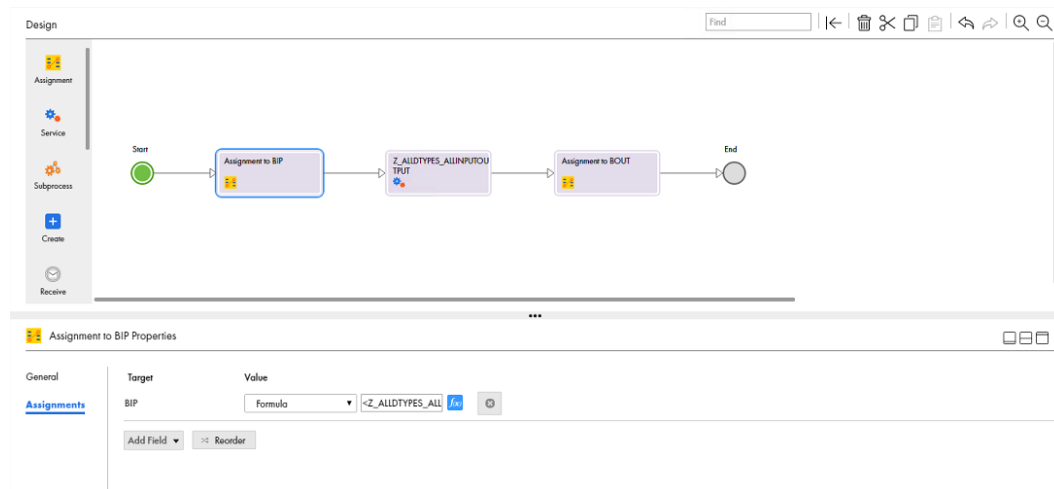


## 手順 3: 変数の割り当て

変数を作成したら、必要な入力変数と出力変数を割り当てます。

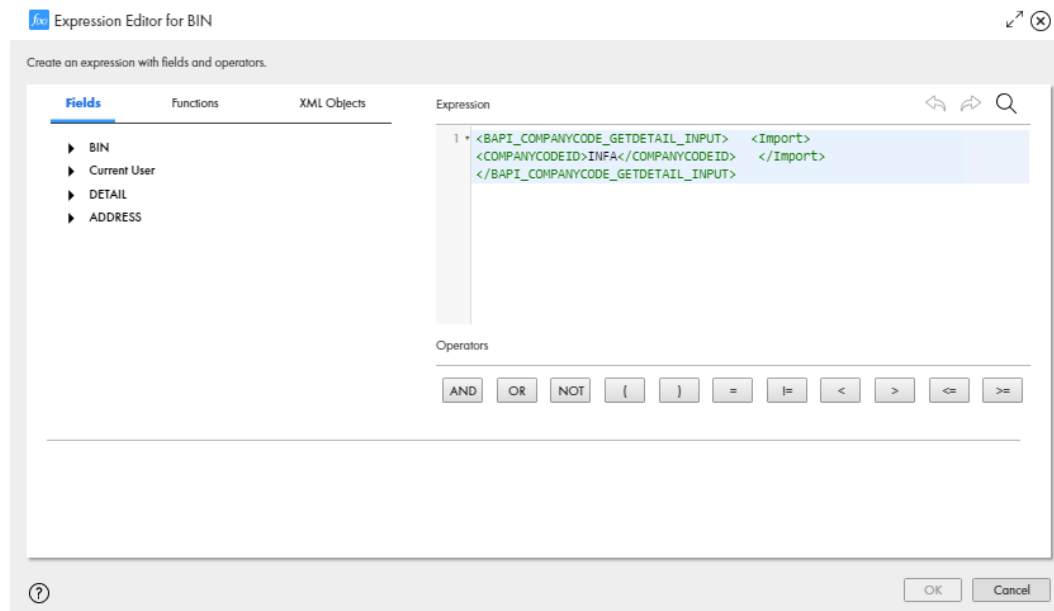
Salesforce から企業コード ID を読み取る Salesforce 入力変数を割り当てます。割り当てステップを設定して、Salesforce 入力変数フィールドを追加します。

次の図は、Salesforce 入力フィールドの割り当てを示します。



Salesforce 入力変数から企業コード ID を読み取る BAPI 入力変数を割り当てます。割り当てステップを設定して、BAPI 入力変数フィールドを追加します。入力フィールドのソースとして、計算式を選択します。Salesforce 入力変数からすべての入力フィールドを読み取る計算式を入力できます。

次の図は、BAPI 入力フィールドの割り当てを示します。

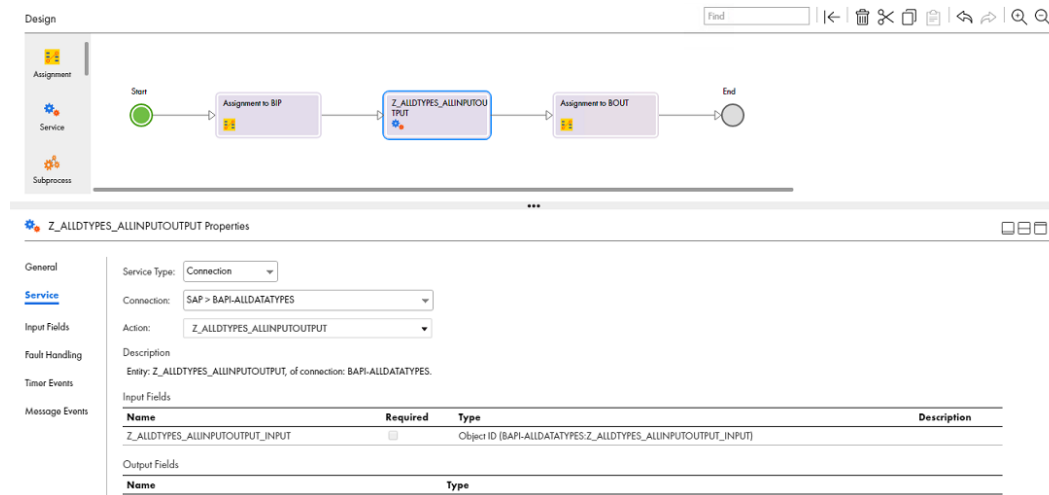


## 手順 4: BAPI サービス呼び出しの設定

プロセス内にサービス呼び出しを設定して、BAPI 入力パラメータへの入力を設定します。

Z\_ALLDTYPES\_ALLINPUTOUTPUT\_INPUT 関数にアクセスする SAP BAPI 接続を使用するように、BAPI サービス呼び出しを設定します。

次の図は、サービス呼び出しの設定を示します。



Z\_ALLDTYPES\_ALLINPUTOUTPUT\_INPUT 入力変数から読み取るように、サービス呼び出しの入力フィールドを設定します。[入力] タブで、[フィールド] を BAPI 入力パラメータの値として選択し、[Z\_ALLDTYPES\_ALLINPUTOUTPUT\_INPUT] 入力フィールドを選択します。

次の図は、サービス呼び出しの入力フィールドの設定を示します。

The screenshot shows the 'Z\_ALLDTYPES\_ALLINPUTOUTPUT Properties' panel with the 'Input Fields' tab selected. It displays a table with the following data:

Name	Required	Value
Z_ALLDTYPES_ALLINPUTOUTPUT_INPUT	<input checked="" type="checkbox"/>	Field BIP

There is an 'Add Field' button in the top right corner of the table.

## 手順 5: BAPI 出力パラメータの Oracle テーブルへの書き込み

BAPI\_COMPANYCODE\_GETDETAIL\_Output パラメータは、COMPANYCODE\_ADDRESS、COMPANYCODE\_DETAIL、および Return のパラメータを返します。出力パラメータを Oracle テーブルに書き込むことができます。

次の手順を実行して、BAPI 出力を Oracle テーブルに書き込みます。

### プロセスへの並列パスの設定

プロセスに並列パスステップを設定し、各出力パラメータを個別の Oracle テーブルに書き込むために 3 つのパスを追加します。

### プロセスへの作成オブジェクトの設定

それぞれのパスに、作成オブジェクトを設定します。作成オブジェクトを設定するには、次の手順を実行します。

- Oracle 接続を選択して、オブジェクトタイプを Oracle テーブルとして指定します。
- [入力] タブで、Oracle テーブルのフィールドを BAPI 出力パラメータの関連付けられているフィールドにマッピングします。

- Oracle テーブルに書き込むすべての出力フィールドについて、フィールドマッピングを繰り返します。

## 手順 6: プロセスの実行

プロセスを保存したら、**【プロセス】** タブに新しいプロセスが表示されます。

**【開始】** タブを **【プロセスのプロパティ】** ダイアログボックスでクリックして、**【匿名アクセスを許可】** オプションを有効にします。

**【デザインホーム】** ページでプロセスを選択して、サービス URL をコピーします。サービス URL を使用して、プロセスを実行します。プロセスが実行され、Secure Agent は企業の住所と詳細を Oracle テーブルに書き込みます。

次の図は、**【プロセスのプロパティ】** タブのサービス URL を示します。

Properties for BAPI-COMPGETDETAIL

General **Process Properties**

Basic

Applies To: \* Any \*

Endpoints

Service URL: https://ai-pod1.staging1.informaticacloud.com/active-bpel/public/rt/e5Q4jQ6yyYbgfhqyVoFf2u/BAPI-COMPGETDETAIL [Copy](#)

[View Swagger File](#)

SOAP Service URL: https://ai-pod1.staging1.informaticacloud.com/active-bpel/public/soap/e5Q4jQ6yyYbgfhqyVoFf2u/BAPI-COMPGETDETAIL [Copy](#)

[View WSDL File](#)

?

OK Cancel

# BAPI\_SALESORDER\_CREATEFROMDATA1 を使用したプロセスの例

BAPI\_SALESORDER\_CREATEFROMDATA1 関数を使用して、販売オーダードキュメントを作成できます。

この関数を使用して、関数内のインポートフィールドとテーブル入力フィールドから読み取りを行います。顧客の詳細とオーダーされた項目を指定して、販売オーダードキュメントを生成します。

入力として、オーダーヘッダー、項目の詳細、およびパートナーの詳細を渡します。オーダーヘッダーには、番号、ドキュメントタイプ、販売組織、および部門などのフィールドが含まれます。項目の詳細のテーブル入力には、項目番号、素材、必要数量、販売単位、および必要日などのフィールドが含まれます。複数の入力フィールドを BAPI 入力フィールドに割り当てて、値を BAPI\_SALESORDER\_CREATEFROMDATA1 関数に渡します。SAP は、一意の販売番号を生成し、入力した詳細に基づいて販売オーダーを作成します。BAPI の出力は、一意の販売ドキュメントです。項目の販売先パーティや、項目について請求先となっているパーティなどの、その他の詳細も含まれます。

この例では、BAPI\_SALESORDER\_CREATEFROMDATA1 関数にアクセスするサービス呼び出しを設定し、Oracle データベースから入力の詳細を読み取ります。SAP は、販売ドキュメント、販売先パーティ、出荷先パーティ、および請求先パーティの詳細などの複数の出力を生成します。

次の手順を実行して、販売オーダーを作成します。

1. SAP BAPI 接続と JDBC 接続をアプリケーションの統合で作成します。
2. プロセスのプロパティに入力変数を作成します。項目の詳細、オーダーヘッダー、およびパートナーの詳細用の入力フィールドを作成します。また、統合された入力を BAPI 関数に提供するための変数を作成します。
3. プロセスのプロパティに出力変数を作成します。BAPI 出力を取得するための、販売ドキュメント、販売先パーティ、出荷先パーティ、請求先パーティなどの出力フィールドを作成します。
4. オーダーヘッダー、項目の詳細、およびパートナーの詳細を、Oracle データベースから読み取り、プロセスの変数に割り当てます。
5. テーブル入力には複数の入力を設定できるため、For ループを使用して、オーダー項目の入力テーブルオブジェクトからすべての項目を読み取るための計算式を作成して、BAPI 入力フィールドに割り当てます。
6. パートナーの詳細を BAPI 入力フィールドに割り当てるには、すべてのパートナーの詳細を読み取るために、For ループを使用して計算式を作成します。
7. SAP BAPI 接続を使用して BAPI に接続する BAPI サービス呼び出しを設定します。
8. BAPI 入力フィールドを BAPI\_SALESORDER\_CREATEFROMDATA1 の入力に割り当てます。
9. 出力フィールドを BAPI の出力に割り当てます。
10. プロセスを実行して、販売オーダードキュメントを出力します。

# 索引

## B

BAPI コネクタのプロセス

概要 [15](#)

BAPI コネクタの管理

概要 [6](#)

## S

SAP BAPI

接続プロパティ [9](#)

SAP BAPI コネクタ

実装 [5](#)

例 [15](#)

SAP BAPI 接続

パブリッシュされたメタデータ [11](#)

作成 [14](#)

SAP BAPI 接続メタデータ

理解 [11](#)

SAP ユーザー権限

設定 [7](#)

SAP ライブラリ

設定 [6](#)

## こ

コネクタ

SAP BAPI [5](#)

## ふ

プロセスの例

BAPI\_SALESORDER\_CREATEFROMDATA1 [20](#)

Oracle テーブルへの書き込み [18](#)

サービス呼び出しの設定 [17](#)

プロセスの実行 [19](#)

概要 [15](#)

接続の作成 [16](#)

変数の割り当て [16](#)

変数の作成 [16](#)